

長良川の環境改善を

岐阜知事に実行委が要望書

長良川河口堰（ゼッキ）の開門と環境改善を求める30の市民団体



河口堰ゲートの閉鎖で起きている問題をパネルで示し、要望の趣旨を説明する（前左から）粕谷、武藤氏ら。4日、岐阜県庁

・グループでつくる「よみがえれ長良川実行委員会」は4日、岐阜県庁を訪れ、古田肇知事に対し、「長良川の環境改善を求める要望書」を提出しました。

粕谷志郎共同代表、武藤仁事務局長らが参加し、日本共産党の中川裕子県議が同席。県は県土整備部河川課課長らが応対しました。要望書は、河口堰閉鎖から25年が経過し、新規利水として一滴も使われず、水道も当初計画の15%であり、利

水施設として無駄であったことを指摘。▽河口堰の開門調査に向け検討を行う▽徳山ダム導水路事業の即刻中止を検討の場▽美濃市横越の「遊水地」計画は強行しないなど6項目を求めています。

粕谷氏は、河口堰閉鎖の問題点を示し、農業塩害の危惧を理由に「開門調査」を拒否する県を批判。「塩害の危惧にも科学的な根拠を示して提案しており、検討してほしい」と要求。県は「河口堰の弾力的運用を国に要請している。検討は考えていない」と答えました。

では、世界農業遺産認定の長良川の鮎や特別天然記念物のオオサンショウウオなどの生態にも大きな影響が出ることや水害が増す恐れを指摘。「一度立ち止まって考えてほしい」と要求。県は「総合的判断で妥当だと決めた」と国の方針に従う姿勢を示しました。

2021.6.8 しんぶん赤旗

2021.6. 6 中日新聞

長良川河口堰の開門調査検討を

市民団体、県に要請

市民団体「よみがえれ長良川実行委員会」は4日、

県に対し、長良川河口堰の開門などを求める要請をした。

粕谷志郎共同代表が要請書を県河川課の担当者へ渡した。要請書では、河口堰

を開門して環境を調べる

「開門調査」の実施に向けた検討や、美濃市横越地区での長良川の遊水地計画を撤回することなどを求めている。

県の担当者は「河口堰の弾力的な運用を国に要請していく」と述べたが、団体側が求める海水を上流に通す開門は「考えていない」と回答した。（安福晋一郎）

県は「総合的判断で妥当だと決めた」と国の方針に従う姿勢を示しました。